

外国人技能実習生に災害時の食事について説明しました（語学研究部）

11月8日に、宮城県国際化協会の主催で行われた「地域で広げる多文化共生の輪」に参加しミャンマー出身で多賀城市大代地区に暮らす技能実習生に、災害時の食事について説明をしました。これは地域住民との交流を重ね技能実習生を交えた多文化共生の地域づくりを進めることも目的とし実施されました。語学研究部では、ミャンマー語での自己紹介後に「備蓄食品・ローリングストック」「空き缶2個を使った米の炊き方」「お湯を使わないラーメン」「ビニール袋を使った米の炊き方」「ハッシュドフィッシュ」「ビニール袋を使った蒸しパン」等を、自分たちで調理した動画などを用いて説明しました。

【参加した生徒の感想】

学校の授業で学んでいる「くらしと安全」で得た知識をもとに、災害時の食べ物について多賀城市内で働いているミャンマー人の方へ発表しました。今回、新型コロナウイルス感染予防のためミャンマー人の方と一緒に調理をすることはできませんでしたが、事前に災害時に使用する調理器具の代用品や材料を見せながら調理工程の説明する動画を、自分たちで作成し、当日それを流すことで工夫したところ等を紹介することができました。

また、発表前の挨拶ではミャンマー語で自己紹介をしました。ミャンマー人の方が喜んでくださったのが嬉しかったです。

今回の研修を通し、新型コロナウイルスの影響で発表の制限が多い中、部員全員で協力し聞き手のミャンマー人の方にとしたら発表をわかりやすくできるか意見を出し合うことができ、良い発表ができました。同時に、より多くの方に防災知識を伝えるためにもこの発表を英語など他の言語に翻訳し積極的に発信していきたいと思いました。

語学研究部 2年 金森 優花（富沢中出身）

